

田川は怖くない。いい所だ。

田川市教育委員会 教育長 吉 柳 啓 二

テーマに掲げた言葉は、田川支局に2年半勤務し、この8月に他地区に転勤することが決まったY記者の記事の最後に書かれていました。(この記事の中には、Y記者が「旧産炭地である田川の暗い・怖いというイメージをどのように変えるか」という話し合いなどがされた「地域おこし」シンポジウムに参加したことも書いてありました。)

この記事を読んでいろいろなことを思い出しました。ひとつは、40年以上も前のこと。同じ筑豊の旧宮田町出身の私が大学卒業後、田川市の小学校に就職が決まったとき、近所の人や親戚たちから口々に「田川ね…。早く帰ってこなよ!」と言われました。「田川も宮田も同じ筑豊なのにそんな言い方をするのか?!」と思いました。もうひとつ、10年前のこと。私が市内の中学校の校長をしていたとき、北九州市から新任の先生がやってきました。そのピカピカの新任教諭が「恩師に田川の学校に決まったことを報告すると、『大変なところに決まったね』と言われました」という言葉を口にしたとき、「田川が何でそんなことを言われなくてはいいかんのか!」と怒りを感じたのを覚えています。

というのも、私は全国から違う価値観と文化を持った人々が集まり、炭鉱という共通の仕事を手助けし、競い合いながら、魅力的で温かくパワフルな「ひと」「文化」「共同体」を創りだした街こそが田川だと思っているからです。田川での教師生活を振り返っても、

「怖い」どころか、子どもたちや家庭のみなさんは、未熟な教師である私をいつも支え、励ましてくれました。20代の頃、自転車を押しながら家庭訪問に行くと「学校や先生のこと、よく、子どもが家で話してくれる!家が最後やろう!ご飯、食べていき!」という温かい言葉を何度もかけてもらいました。また、地域に出かけていくと「子どもや学校のためにできることがあったら何でも言うて!できることは何でもするき!」という地域のみなさんに数多く出会いました。炭鉱が消えて半世紀が過ぎましたが、「子育て」「地域づくり」「文化・スポーツ活動」などのさまざまな活動に熱い思いを持った人々はたくさんいます。Y記者の記事にも、「事を成す際の原動力となる情け深く、熱い人が多い」という内容が書かれていますが、その通りだと心底思います。

最後にもうひとつ、Y記者の記事で胸に突き刺さった文章があります。それは「田川の負のイメージを克服する大きな力は行政であり、教育だ」という部分です。何としてでも「子どもたちの育ちの姿」と「データ」の両方で成果を出し、「みんなが誇れる教育と文化のまち田川」を創ります!



↑ 地域の人でにぎわうふれあい夏祭り



↑ 地域一丸となった登校見守り風景

放課後子どもチャレンジ教室

平成28年度に弓削田小学校、大藪小学校でスタートしたこの教室は、平成29年度、伊田小学区、金川小学校でもスタートし、平成30年度は、鎮西小学校、猪位金学園でもスタートしました。

小学校1、2年生を対象としたこの教室は、児童が放課後の時間に学習する習慣を身に付け、学ぶことの楽しさを自覚させるための取り組みです。この教室の時間中には、宿題やプリント学習の他にも、レクリエーションや体験学習も行われています。

運営は、校区活性化協議会を中心に、PTA、学校との協働で行われており、保護者のみなさんがスタッフとして参加していただいているのも特徴的です。また、スタッフのみなさんはチャレンジ教室の先生と呼ばれ、子ども達と大変親しみながら参加していただいています。

今後2年間で、全小学校でスタートする計画を進めていますので、保護者、地域のみなさんには積極的な参加・御協力をお願い致します。



←大藪小学校



←弓削田小学校



←伊田小学校



←金川小学校



夏休み 小学生体験事業

トコナツキッズジュニア(低学年) トコナツキッズ(高学年)

この事業は、さまざまな体験活動を通して他校・異学年の児童や地域指導者との交流を図り、自己肯定感を養うことを目的に毎年開催しており、今年で14年目を迎えました。

今年は、毎年定員を超える申し込みがあるトコナツキッズジュニア(低学年)の開催回数を増やし、更に、プログラムを自然体験・文化体験の2つに分け、選択制にしました。その結果、トコナツキッズ(高学年)を含めた計5日間で、124人の児童が参加しました。児童からは「来年も絶対に参加したい」との声が寄せられました。



↑水上スキー体験



↑サップ体験



↑英語で自己紹介ゲームなどを体験



↑田川市石炭・歴史博物館を見学



↑本格的なヴァイオリン・ピアノ演奏を体験



↑まがたま
勾玉作りに挑戦



↑自分でつかみとったヤマメは絶品!



食でいきいき

食育推進!



みなさんは食育という言葉聞いたことはありますか。知育・徳育・体育の基礎となるもの、それが食育なのです。この食育は、私たちが生きる上での基本であって、さまざまな経験を通じて、「食」に関する知識と、「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育むこととされています。(食育基本法前文から紹介)

本市においても、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう食育の推進を図っています。今回は、その取り組みの一部を紹介します。

毎年6月は、食育推進基本計画で定められた「食育月間」です。各学校では、毎年さまざまな食育の取り組みが行われており、今年は、中学校1年生を対象に、栄養教諭が食育の授業を行いました。

授業の内容

- ・海外の給食の紹介
- ・成長期に必要な栄養素について
- ・「食品ロス」について
- ・ランチボックス給食ができるまで



授業を受けた生徒の感想

- ・自分の食生活を振り返ってみるとバランスが悪いことに気が付きました
- ・食品ロスの量が多くてびっくりしました。これからは好き嫌いをせず何でも食べ、食品ロスを減らすことを考えていきたいです
- ・ランチボックス給食を作るのがとても大変だということと、作る人の思いが伝わりました。自分も嫌いな食べ物があれば残していたけど、「栄養」のことや、作る人の「思い」も考え、残さず食べたいと思います

そのほかにも、節分やお月見など、季節と関連した献立を提供するなどの食育を行っています。7月6日の小学校は、七夕に関連した献立でした。



7月6日の献立

- ・パン
・星のコロッケ
・七夕巨峰ゼリー
- ・牛乳
・流れ星スープ

給食を食べた児童・教職員の感想

- ・星のコロッケがおいしかった
- ・デザートが冷たくておいしかった
- ・七夕メニュー喜んでいました

本市では、今後も子どもたちが食文化への理解を通して、豊かな人間性を培うため、食育推進に取り組んでいきます。

小中学校のブロック塀安全対策について

平成30年6月18日に発生した大阪府北部地震によるブロック塀倒壊事故を受け、市教育委員会では、翌19日～20日にかけて、市内全小中学校のブロック塀の調査・点検を実施しました。

この結果を踏まえ、安全安心な学校環境づくりの観点から、平成31年度末までに、既存のブロック塀を撤去したうえでフェンスに改修するなどの対応を行うこととしました。

ブロック塀改修工事の時期や方法などが決まりましたら、保護者や近隣住民のみなさんに随時お知らせします。

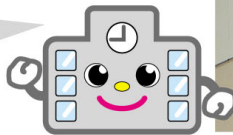


◆ 問い合わせ ◆ 田川市教育委員会 教育総務課 ☎85-7165

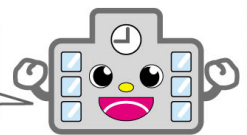
教えて!再編ススムくん

8月3日に先進地見学会を開催し、小学校のPTA役員や学校の先生など、総勢59人に参加いただきました。午前中は川崎中学校の仮設校舎、午後は宮若東中学校を見学し、参加者からは「実際の校舎を見ることができて、イメージが具体化した」「田川市の新校舎にも取り入れてほしいものがたくさんあり、参考になった」などたくさん意見をいただきました。

今回見学した学校で良かったところなどは、新しい中学校に生かせるよう取り組んでいくよ!



8月3日に実施した
先進地見学会について



再編ススムくん

見学会の様子



◆ 学校再編に関する問い合わせ ◆ 田川市教育委員会 新中学校再編推進室 ☎85-7169

平成30年度田川市石炭・歴史博物館 日本初ユネスコ世界記憶遺産(世界の記憶)登録 山本作兵衛コレクション原画企画展「炭坑で働く・遊ぶ・生きる子どもたち」



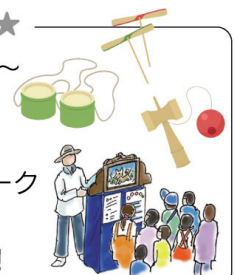
炭坑労働や子守りなど、お手伝いとして当たり前のように働いていた昭和初期までの炭坑の子どもたち。全力で働き、遊び、そして生きた子どもたちの姿を、山本作兵衛翁が描き残した炭坑記録画の原画などとともに紹介、解説します。

- ◆ とき：10月30日(火)～12月2日(日)
9時30分～17時30分(入館は17時まで)
※期間中休館日：11月5日・12日・19日・26日(いずれも月曜日)
- ◆ ところ：田川市石炭・歴史博物館
(田川市大字伊田2734番地1 石炭記念公園内)

- ◆ 入館料：一般400(280)円、高校生100(70)円、小中学生50(30)円
※()は20人以上の団体料金。(土曜日高校生以下無料)

★関連イベント★

- ★11月3日(土・祝) 13時30分～
かみしばいと昔あそび
- ★11月10日(土) 13時30分～
学芸員によるギャラリートーク
- ★11月24日(土) 13時30分～
昔のお手伝いにチャレンジ!



- ◆ 問い合わせ：石炭・歴史博物館 (☎44-5745)